

出荷数量1070トンを計画

～ミニトマト収穫開始～

ＪＡ管内でミニトマトの収穫が始まりました。作付け面積は昨年より1.4割多い18.1割、生産者は新規作付け者11人を含む169人が生産しています。出荷は7月下旬から8月上旬がピークとなり11月いっぱいまで。昨年より多い1070トンを計画しています。

園芸生産出荷協議会ミニトマト部会の部会長を務める齋藤久嗣さんは7月1日、色づいたミニトマトの収穫作業に追われていました。齋藤さんは20年以上ミニトマトを栽培しており、約1000坪の面積で約6000本栽培しています。収穫したミニトマトはパックに詰め、翌朝ＪＡへ出荷しました。

齋藤さんは「天候も良く収穫作業は順調に進んでいる。今後も収穫や誘引、交配処理の作業を平行して行うため忙しさが続くが、基本に忠実な栽培管理を徹底する」と話しました。



ミニトマトを収穫する齋藤さん

病害虫の発生に注意

～ミニトマト栽培講習会～

板柳園芸部会（山内靖久部会長）は7月7日、山内部会長のハウスでミニトマト栽培講習会を開きました。西北地域県民局地域農林水産部の普及指導員が講師を務め、今後の栽培管理や病害虫について説明し「気温が上昇すると病害虫の発生が多くなると思われるので、徹底防除に努めてほしい」と呼び掛けました。

参加者は「栽培管理について改めて確認できた。これからの作業に生かしていきたい」と話しました。



今後の栽培管理などを確認する部会員

順調に育ち品質良好

～「ときわにんにく」収穫開始～

「ときわにんにく」の収穫作業が6月下旬に始まりました。令和2年産は生産者131人が約81割で栽培し、6月末にピークを迎え、7月上旬に終了。生産者は約3週間かけてゆっくり乾燥させてからＪＡに搬入します。

ときわにんにく部会の副部会長を務める横山英樹さんは6月23日から収穫を開始。「昨年は干ばつの影響で変形球が多かったが、今年は適度な降雨により順調に肥大し品質の良いにんにくができた。掘り遅れのないよう作業を進める」と話しました。



にんにくの根と茎を切る作業員